

西中学校

西中学校は、蚕桑中学校と鮎貝中学校が統合し昭和41年に開校。昭和43年から新校舎での授業が始まりました。創立から49年、平成26年度の卒業生を含め5400人あまりが学び舎を巣立ちました。

閉校式後には、懐かしの写真とともに、学校創立から49年間の学校行事や部活動などを振り返り、全校生で「さくら」を合唱。校舎とともに惜しまれつつの閉校となりました。



▲49年間の歴史を写真で振り返った



▲学校に感謝し全校生で「さくら」を合唱



▲昭和40～50年代の陸上大会での応援を再現

東中学校

東中学校は、昭和46年に、荒砥中学校、鷹山中学校、東根中学校の3校が統合し開校しました。開校当初はそれぞれの校舎に分かれての授業でした。新校舎での授業は昭和48年から始まり、これまで約6000人が卒業し、44年の歴史に幕を下ろしました。

閉校式後の生徒発表では、これまで生徒を見守り思い出をくれた学校に感謝状が贈られ、新生白鷹中学校のスタートに向かつての閉校となりました。



▲「生きている証」を全校生で合唱



▲生徒から学校に手づくりの感謝状が贈られた



▲2代目生徒会長の紺野喜一さんに当時の生徒会活動について伺った